

～ 凍結抑制剤の豆知識 ～

凍結抑制剤 散布状況



左の写真は、「凍結抑制剤」を散布している状況写真です。

気仙沼国道維持出張所では、当日の雪氷予測を基に、路面凍結の恐れがある道路に凍結抑制剤の散布を行います。

凍結抑制剤とは、塩化ナトリウムや塩化カルシウムのことです。凍結抑制剤をまくと、水が凍る温度を下げる事が出来ます。例えば、0℃で凍っていた水に、凍結抑制剤が加わると、0℃より低い温度で凍ることになり、路面の凍結を抑制することが出来ます。

今回は路面凍結を防いでくれる「凍結抑制剤」と散布までの流れについて解説していきます。



<凍結抑制剤の特徴>

【塩化ナトリウム】

- ①凝固点を下げる(約-20℃)
- ②塩化カルシウムに比べてゆっくり溶かしていくため、持続力のある凍結防止が可能
- ③安価で管理が容易



気仙沼国道で使用しているのは塩化ナトリウムだよ！

【塩化カルシウム】

- ①水に溶けると発熱する
- ②凝固点を大きく下げる(約-55℃)
- ③吸湿性があるため、散布することで防塵対策にもなる
- ④塩化ナトリウムに比べて即効性がある

☆凝固点とは☆
液体が固体に変化する温度のこと

<凍結抑制剤散布の流れ>

④準備&後片付け

引き続き散布がある場合は次の準備をし、ない場合は後片付けを行う。

次回散布の準備



①気象情報確認

雪氷予測を確認し、凍結抑制剤の散布を、受注者へ指示。



②散布準備

指示を受けた受注者は、散布に向けて準備を行う。

③凍結抑制剤散布開始

気仙沼管内(約64.3km)の散布を実施する。

凍結抑制剤 散布状況



二階から積込みを行う。

散布車へ塩化ナトリウムを積込んでいる状況

気仙沼国道維持出張所では登米市境～岩手県境の約64.3kmの国道45号を管理しています。道路上の落下物等を見つけたましたら、下記の連絡先までご連絡お願いいたします。